
第 5 期事業年度 事業報告書

(自 平成 27 年 6 月 1 日 至 平成 28 年 5 月 31 日)

一般社団法人 おらが大槌夢広場

目次

I 第5期事業年度事業の報告

I 第5期事業年度の報告

平成28年6月30日 事務局

1. 団体の概要

(1) 法人の目的

東北太平洋沖地震により、激甚な被害を受けた岩手県大槌町において、町民や専門家の幅広い知恵と行動力を結集し、まちづくりに関する事業を行い、観光業、商工業、農水産業の発展と、それらの担い手である大槌町民の生活再建に寄与すること。

(2) 事業内容

[法人定款より]

- 住民参加型復興まちづくりに関する、調査研究やその補助事業
- 効率的な町づくりの運営に資するための委託事業
- 津波被害前後の大槌の歴史や資源、景観等に関する情報の収集・蓄積および展示、インタープリテーションを含めたタウンミュージアム事業
- 災害ボランティアや視察研修等の誘致と、そのアメニティ向上
- 大槌町民と国民、行政およびその外郭団体とのネットワークの促進
- ご当地グルメや観光資源の発掘・開発、イベントの実施など、地域振興に資する事業
- 飲食（ご当地グルメ）の提供
- 前各号に掲げる事業に附帯または関連する事業

2. 第5期事業年度の取り組みについて

(1) 取り組みの概況

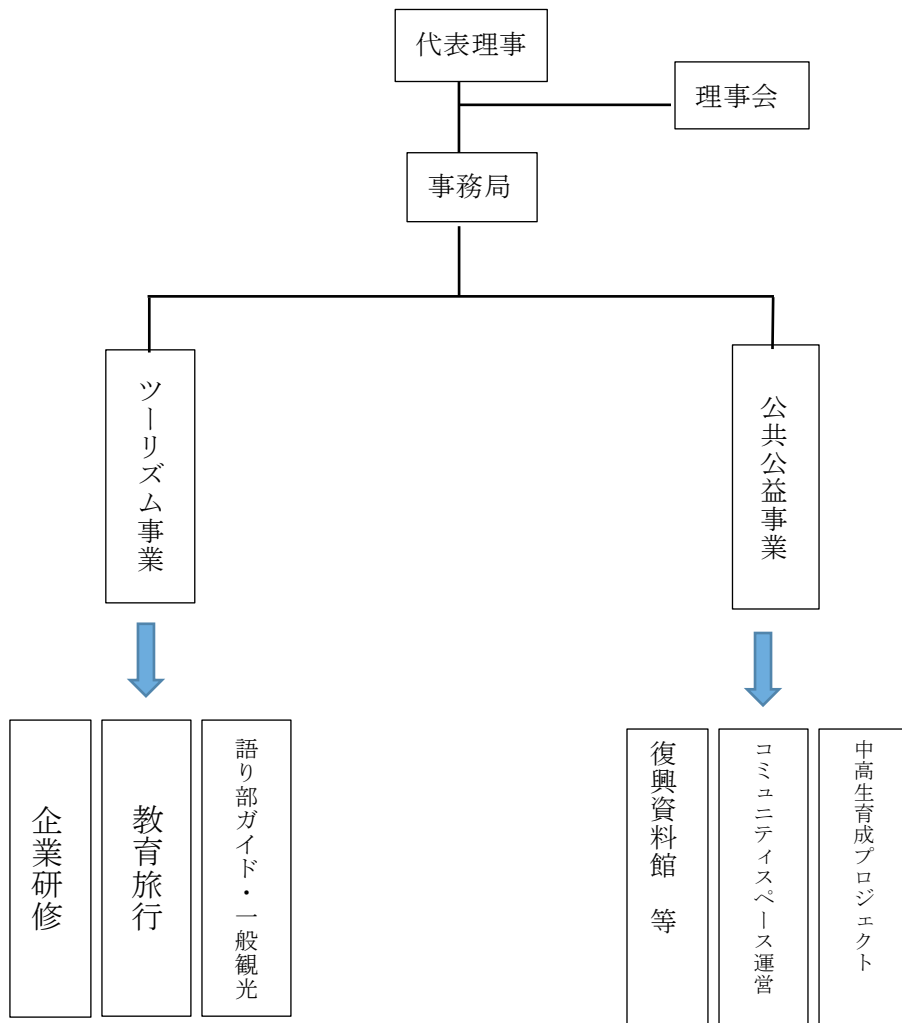
平成27年度は各種民間助成等を受け、事業を展開してきました。

収入総額	34,953,744 円
（前年度からの繰越額）	19,920,900 円
（本年度の収入額）	15,032,844 円
支出総額	20,572,724 円
翌年度への繰越額	14,381,020 円

(2)具体的な取り組みの報告

今年度も、昨年度のチーム制を概ね引き継ぎながら①公共公益的な事業②観光振興に資する事業③新規事業開拓という2つの事業を展開した。

〔事業執行体制〕



1. ツーリズム事業

①企業研修

企業研修の受入は、昨年度に引き続き増加している(下記、実績表参照)。また、企業研修事業におけるリピーター率も7割以上をキープしている。リピーター企業にも発展した受け入れ内容を提供出来るよう、昨年度の振り返りや反省点などを聞き今年度の内容に反映させるようにした。また、新規の人材育成コンサルタント会社や業務を行っている方々向けにワークショップを披露する機会を頂き、コンサルタント経由での顧客獲得に努めた。東京で開催された日本最大級の人材育成イベント「HRカンファレンス2016」においても、当団体の成り立ちと取組についてのプレゼンテーション、及びワークショップを行った。それらの機会では、当団体の研修事業のPRをするとともに、現在行っているワークショップや取組についてのアドバイスや発展のさせ方についてアドバイスを頂けることが多い。今後もリピーター企業を引きつけておくには、さらに研修内容を発展させていく事が必須であるため、このような機会に今後も積極的に参加して、研修の精度をあげていきたい。

又、県南振興局の方々が、平泉等の一般観光と絡めて行う企業研修に力を入れ始めており、当団体の取組に興味をもっている。実際に、企業研修の受入時に視察に訪れたりしており、今後、東京、中部、関西地方の企業と一緒に営業にまわり、オール岩手で企業を誘致出来るような体制を作っていくことで話を進めている。

②教育旅行

教育旅行受入数も昨年度より増加した。これは、昨年度に行った営業活動や誘致活動などの「種まき」が芽を出したものと考える。当団体のコンテンツを体験した先生の口コミや、誘致説明会などにて配布した資料が人伝いに広まり、新規の学校からの問い合わせや予約が入ったりもしている。各旅行会社の方でも、大槌まで来る行程を経験することで、距離感や大槌でのコンテンツへのイメージがつきやすくなったようで、他校への紹介等もしてもらえるようになっている。首都圏の教育旅行誘致については、主にJTBコーポレートセールスの営業の方々に頼っている状況である。これを、他社に広げていくと共に、JTBとのパイプを太くしていき、他支社に広げていってもらうような働きかけも必須である。

又、県観光協会主催の教育旅行誘致説明会において、個別商談会前に行われる全体説明会にて、県代表として東梅が当団体の取組やコンテンツを紹介する機会を得た。それにより、実際の語り部ガイドで伝えているメッセージを具体的に伝える事ができ、新規の問い合わせ・予約に繋がった。今後も、このような機会をもらえるよう県との関係性を密にしていきたい。

③語り部ガイド・一般観光

語り部ガイドのみの受入人数は半減した。しかし件数で見ると3割減のみである。昨年度まで比較的多かった旅行会社主導のバスツアーは減ったが、子ども連れや同僚・友達同士など個人単位で訪れる人が増えたため、1件あたりの人数は減ったことが要因だと思われる。また、今年度より「旅の発見(近畿日本ツーリストグループ)」と「asoview(JTB系列)」の2つサイトにて個人客向けに

語り部ガイドのオンライン予約を初めたのも効果があり、これらのサイト経由にて予約が入ることが増えている。

第5期ツーリズム事業受け入れ実績表(H27.6.1～H28.5.31)

受け入れ総数		<<内訳>>					
人数	団体数	企業研修		教育旅行		海外	
		人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数
6491	366	666	44	1,892	52	167	12

2. 公共公益事業

①中高生育成事業

当事業年度においては、民間助成金の受託を受け町内若手世代の連携・育成に力を入れた。現在まで、組織や地区を越えての若手の繋がりが構築されてこなかった大槌だが、それを打破すべく SNS で若手の連携をつくり、様々な情報を発信する事業や、そこで繋がった若手が一緒に UJI 促進ツアーの受入を行い連携を深める機会を提供するなどした。この連携により、違う組織同士の若者が共通課題について話し合いプロジェクトを立ち上げようとしていたり、互いの組織のイベントを手伝うなどの関係性が構築されつつある。また、以前、高校生として山古志地域の視察に参加した二十歳の2人が、山古志のお祭りで行われる成人の式に参加したいという要請があり、実現させた。このように、若手が何かをしたいときに当団体に打診するという流れが出来つつあり、「町内若手の万屋」としての位置づけを強化していきたい。

中高生の育成事業としては、例年とおり『高校生起業体験』を放課後 NPO アフタースクールとともに実施した。この事業は、3 回目となり町内の業者さんにも認知されつつあり、高校生に町内のことを知ってもらうのに良い取組として評判も良かったため、今後も続けて行きたい。また、今回は、大阪府西成地区の視察事業も実施した。これも、上記教育旅行の一貫として来た西成地区の小中学生との交流をきっかけに生まれた声を実現させたものである。思いを実行に移すまでにミーティングを重ねたことと、実際にいって西成地区の現状を見聞きすることで、生徒達にも自らの人生や将来についての考え方に変化が生まれた。来期も、若手が成長する「きっかけ」となる声を丁寧にひろい、若手と一緒に一つ一つ実現させていくことを丁寧に行っていきたい。

②コミュニティスペース運営、復興資料館運営

事務所1階の和室をコミュニティスペースとして公開し町民に利用してもらっている。事務所のある沢山地区自治会が集会場を所持していないことから、自治会へ協力し、沢山地区住民へコミュニティスペースについての周知を行い、お茶っこ、老人会、太極拳、季

節事のイベントの集まりなどに広く利用されるようになっていたが、今年 5 月頃に沢山自治会の集会所ができたため、自治会活動はそちらで行われるようになった。一方、役場を始め、他団体にも当コミュニティスペースのことが広く知られるようになり、幅広い町民の方々が利用をはじめようになっている。今後も、この事業は町民が自由に使える場所として継続させていく。

復興資料館は、主に語り部ガイドや研修事業で訪れた外部の方々むけに利用されている。希望があれば研究者などへの貸し出しも行っている。今後、町方地区のコミュニティスペース・集会所（OFC）の計画が本格化していくなかで、模型をどこで展示するのが最良なのかの関係者各位と議論を重ねていく必要がある。